学則の変更の趣旨等を記載した書類

目　次

ア 学則変更（収容定員変更）の内容 ---------- p. 1

イ 学則変更(収容定員変更)の必要性
（1）社会からの要請への対応 ---------- pp.1-3
（2）進学需要への対応 ---------- pp.3-5

ウ 学則変更(収容定員変更)に伴う教育課程等の変更内容
（ア） 教育課程の変更内容・他学部等に影響を与える授業科目等 ---------- pp.5-6
（イ） 教育方法及び履修指導方法の変更内容・他学部等への影響 ---------- pp.6-7
（ウ） 教員組織の変更方針 ---------- p. 7
（エ） 大学全体の施設・設備の変更内容 ---------- p. 7

添付資料（教育課程等の概要） ---------- pp.8-11

ア　学則変更（収容定員変更）の内容

令和 3 年度から，健康科学部において下記表 1 の通り収容定員の変更を行う。
具体的には，福祉工学科の入学定員を 70 名から 100 名に変更する。

表 1　変更を行う学部・学科の入学定員と収容定員

（単位：人）

学科名	専攻・専修名	現行		変更後	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
福祉工学科	情報工学専修	70	280	<u>100</u>	<u>400</u>
	建築バリアフリー専修				
リハビリテーション学科	理学療法学専攻	40	160	40	160
	作業療法学専攻	40	160	40	160
	介護学専攻	40	160	40	160
健康科学部合計		190	760	<u>220</u>	<u>880</u>

※下線は変更する定員

イ　学則変更(収容定員変更)の必要性

(1) 社会からの要請への対応

日本福祉大学は，昭和 28 年，故鈴木修学によって創設された。「万人の福祉のために，真実と慈愛と献身を」という建学の精神に基づき，中部社会事業短期大学として発足し，昭和 32 年から，日本福祉大学として建学の精神を発展させてきた。

健康科学部福祉工学科は，平成 7 年に愛知県半田市に新たに設置した半田キャンパスに開設した情報社会科学部を起点として，平成 20 年から，工学（情報工学，建築学）の技術を福祉に応用する教育・研究を展開してきた。

情報工学専修では，開設当初より本学の特徴である福祉，医療，リハビリテーション等への利活用を視野に置き，情報工学に関わる教育・研究活動を展開してきた。IT 人材に対する需要は質・量ともに年々増しており，2015 年の人材不足数約 17 万人に対して，2030 年では約 59 万人が必要となると予測されている(経済産業省，平成 28 年【資料１】)。IoT,ビッグデータ,AI,ロボットに象徴されるいわゆる第 4 次産業革命においては，これまで実現不可能と思われていた社会の実現が可能となり，産業構造や就業構造が劇的に変わる可能性があるとされている。このような社会的背景のもと，情報技術系人材の育成および確保についての社会的要請は極めて高く，今後さらにその傾向が強まることも予想される。本専修は，平成 30 年度より，情報技術とリハビリテーション・福祉との融合領域という他大学に

はない特徴をより明確に打ち出すよう教育内容を改善し，このような社会的要請および人材需要に対して的確に応えることができる人材を育成している。情報技術はいずれの産業分野においても求められるものであることから，本専修の強みを活かし，タブレットPCやスマートフォンなどの情報端末を福祉に活かすアプリケーション開発，健康づくりに組むことができる支援システム，福祉分野での利用を想定したIoTの実験，地域と連携した災害時の情報システムの開発，デジタルファブリケーションの利点を活かした地域活性化と地域包括ケアシステムの推進などの，より実践的な教育内容を展開している。また，情報技術を活用した高齢者や障害者の生活支援を行う人材を養成するために，大学の工学系では本専修が国内で唯一である，福祉用具プランナー((公財)テクノエイド協会)取得に対応した教育カリキュラムを組み入れ実施している（【資料２】）。これもまた，大いに期待されている介護ロボットへの情報技術の活用への取組みの１つである。平成29年度以前の入学生においても,株式会社NTTデータMSEやトランスコスモス株式会社等の情報通信分野やフランスベッド株式会社等の福祉用具・医療機器などの製造・流通分野への就職実績があり,平成 30 年度以降の入学生については,上記教育の成果として社会的要請および人材需要に対して的確に応えることができる人材をより多く輩出できるものと考えられる。政府により提唱されている「Society 5.0」では，人工知能（AI）の社会的な必要性が謳われており，「AI戦略2019」の中で，AI人材の育成目標が掲げられているなど，AI教育における大学の役割が重要となっている。医療・福祉分野においても，認知症予防を目的としたAIロボット利用，介護サービスのケアプラン作成でのAIの活用，病気の診断や画像診断に関わるAI開発など，AIの利活用から開発までAIの必要性が高まっている。情報工学専修では，収容定員の変更とともに，「健康・医療・介護・福祉」分野でAIの利活用に貢献できる人材養成のための教育を展開していく。

建築バリアフリー専修においては,①6.18倍に達した建設技術者の高い有効求人倍率(平成30年）（【資料３】），②超高齢社会や障がい者の社会進出に伴う社会インフラ整備の必要性，③平成22年に愛知県で開催されたCOP10を契機とした自然環境と共生した街づくりの推進などに対応して，平成25年から建築士課程のカリキュラムを発展させ，福祉建築領域，環境建築領域において実践力を身につけるための演習科目，特徴的な専門科目をより充実させてきた。福祉施設との協働による施設設計（【資料４】），民間企業との産学連携による生態系ネットワークの推進（【資料５】），海外大学とのワークショップを契機とした学術協定（【資料６】）のほか，行政との連携による中心市街地活性化の取り組み（【資料７】），大学周辺の亀崎地区と協働した地域密着型の演習型講義の展開（【資料８】）など，社会からの要請に即した取り組みを推進している。このような実戦を意識した教育と就職指導の結果，これまでに積水ハウス株式会社，大和ハウス工業株式会社，パナソニックホームズ株式会社等の大手住宅メーカーや準大手ゼネコン，住友林業緑化株式会社，名鉄環境造園株式会社等の大手緑化・造園系会社に高い就職実績を出してきた。また,建築士不足や建築士の高齢化の問題に対して,大学卒業後早期の受験を可能とするため,一級建築士の実

務経験が受験要件から免許登録要件となるよう建築士法が改正されるなど，建設業界において若い世代の人材需要がさらに高まっている中，建設業界にさらに多くの人材を輩出することにより，社会からの人材要求により応えることができると考えている。

なお，福祉工学科ではきめ細かな教育指導，就職指導の結果，平成 25-30 年度まで 6 年連続して就職率 100%（就職者数/就職希望者数）（表２）と，社会で求められている人材を継続的に輩出している。

表２　日本福祉大学健康科学部福祉工学科　就職率推移　　（単位：人）

	平成25年度（2014年3月卒）	平成26年度（2015年3月卒）	平成27年度（2016年3月卒）	平成28年度（2017年3月卒）	平成29年度（2018年3月卒）	平成30年度（2019年3月卒）
卒業者数（a）	57	63	62	47	53	56
就職希望者数（b）	50	63	60	45	53	55
就職者数（c）	50	63	60	45	53	55
就職希望者対比就職率（c/b）	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（2）進学需要への対応

平成 25 年度に福祉工学科の入学定員を 70 名とし，専修制（健康情報専修，バリアフリーデザイン専修）を導入した。さらに，平成 30 年度からは，教育内容の充実とともにその内容にあわせた専修名称（情報工学専修，建築バリアフリー専修）に変更した。

平成 30 年度の専修名称変更後，大学進学の各種媒体上にて分類される学問の分野が社会学系統から工学系統へと変更となった。そのことにより，福祉工学科の両専修の併願構造が変化し，他大学の工学系統の学科と併願されるようになった。その結果，福祉工学科情報工学専修の志願者数は平成 27 年度の 191 人から令和元年度では，588 人へと増加し，平成 30 年度以降，入学者数においても充足できている。また，建築バリアフリー専修の志願者においては，平成 27 年度の 248 人から令和元年度の 737 人へと約 3 倍増加しており，入学者においては，過去 5 年のいずれの年度も入学定員の充足率が 100%を超えている。

さらに，最新の令和 2 年度の一般入試前期日程（Ａ方式・Ｂ方式）の志願者数は，情報工学専修では令和元年度の 58 人に対し令和 2 年度は 110 人に，建築バリアフリー専修では令和元年度の 121 人に対し，令和 2 年度は 179 人とさらに増加している。これにより，他大学の工学系学部との併願構造が確固たるものになっていると推測され，進学需要がより高まっていると考えられる。

表 3　直近 5 年間の志願者・合格者・入学者の推移　　（単位：人）

福祉工学科			情報工学専修	建築バリアフリー専修
入学定員		70	30	40
平成 27 年度	志願者	439	191	248
	合格者	362	149	213
	入学者	67	21	46
	充足率	95.7%	70.0%	115.0%
平成 28 年度	志願者	500	226	274
	合格者	402	171	231
	入学者	65	22	43
	充足率	92.9%	73.3%	107.5%
平成 29 年度	志願者	679	292	387
	合格者	411	144	267
	入学者	72	18	54
	充足率	102.9%	60.0%	135.0%
平成 30 年度	志願者	864	402	462
	合格者	565	233	332
	入学者	106	44	62
	充足率	151.4%	146.7%	155.0%
令和元年度	志願者	1325	588	737
	合格者	449	216	233
	入学者	81	39	42
	充足率	115.7%	130.0%	105.0%

※太枠内は,福祉工学科の専修名称変更後

以上のように，福祉工学科では社会が求める人材の育成とともに社会との連携を通じた教育の実績，情報通信産業，建築業の人手不足の状況，進学需要を踏まえ，現在の教育研究環境を改善・維持できる範囲で，定員増を行う。福祉工学科は専修別の入学定員を設定して定員管理をしているため，福祉工学科情報工学専修の入学定員を 30 名から 40 名，福祉工学科建築バリアフリー専修の入学定員を 40 名から 60 名に変更する（表 4）。

表 4　変更を行う学科の専修別の入学定員と収容定員

（単位：人）

学科名	専修名	現行		変更後	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
福祉工学科	情報工学専修	30	120	40	160
	建築バリアフリー専修	40	160	60	240
学科合計		70	280	100	400

ウ　学則変更(収容定員変更)に伴う教育課程等の変更内容

（ア）　教育課程の変更内容・他学部等に影響を与える授業科目等

情報工学専修においては，現在，1 年次では大学での学習方法を習得させるとともに，情報技術者としてのリテラシー科目，数学科目，プログラミングなどの情報基礎科目や，情報技術を「ふくし」や健康に活かすための基礎科目を配置している。2 年次ではアルゴリズム，ネットワーク，データベースなど，卒業研究へとつながる情報専門科目を配置するとともに，「ふくし」に関わるシステムやアプリケーションを開発できるよう科目を配置している。3 年次では 1～2 年次の科目を基礎として，セキュリティ，Web プログラミング演習などの情報専門職としての技術を身につけるための専門科目，IoT など情報技術に関わる実験を配置している。また，専門職として活躍できる専門性を深めるために，情報資格，福祉資格を取得するために必要な科目を配置するとともに，キャリア形成科目を配置している。そして，3 年次，4 年次には情報技術を応用した卒業研究に取組み，健康な暮らしをサポートするための情報システムに関わる研究や生活支援機器の製作に取り組んでいる。

本学則変更（収容定員変更）にともない情報工学専修では，現在の教育課程に加え，人工知能の理解に必要な数学科目（情報数学 I・情報数学 II）を 1 年次に追加するとともに，正課外で数学のリメディアル教育を充実させる。2 年次では人工知能の関わる科目（人工知能 I・人工知能 II）を配置する。また，1 クラス 40 人を基本とするが，実験機器等の高度な指導が必要なため 1 クラス最大 30 人で行う必要のある演習系科目は，1 クラス開講から 2 クラス開講とする計画としている。演習系科目のクラス数の変化を表 5 に整理する。

表 5　定員増に伴う演習系科目のクラス数の変化

学年	科目名（単位数）	30 人定員クラス数	40 人定員クラス数
3	情報工学実験（2）	1	2
3	健康情報実験（1）	1	2

建築バリアフリー専修においては，定員 60 人となるに伴い，従来 1 クラス 40 人での開講を基本としていた演習系科目を，1 クラス 30 人の 2 クラス開講を基本とする計画としている（学びの入門となる「建築デザイン入門」「環境建築入門」は 1 クラス 15 人の 4 クラス）。なお，本専修が設置された平成 20 年度（当時は専攻）は定員 80 人であり，演習系科目は 1 クラス 40 人の 2 クラス体制で実施しており，平成 25 年度に専修が定員 40 人となった際もこれを踏襲してきた。今回の変更では従前よりも 1 クラスあたり少ない人数とすることで，よりきめ細かな教育を展開していく。40 人定員を 60 人定員に変更することに伴う，演習系科目のクラス数の変化を表 6 に整理する。

表 6　定員増に伴う演習系科目のクラス数の変化

学年	科目名（単位数）	40 人定員 クラス数	60 人定員 クラス数
1	基礎数学Ⅰ（2）	1	2
1	基礎数学Ⅱ（2）	1	2
1	建築デザイン入門（2）	2	4
1	環境建築入門（2）	2	4
1	建築図学（2）	1	2
1	建築製図演習（4）	1	2
2	確率統計学演習（2）	1	2
2	建築デザイン表現演習（2）	1	2
2	建築測量実習（2）	1	2
2	建築 CAD 演習（2）	1	2
2	建築設計演習Ⅰ（4）	1	2
2	建築設計演習Ⅱ（4）	1	2

※基礎数学Ⅰは,建築バリアフリー専修のクラス数のみ。
　この外,情報工学専修において 1 クラス開講している。

学科両専修で科目数増,クラス数増に伴う教員配置とするため,他学部・他学科への影響は発生しない。

（イ）　教育方法及び履修指導方法の変更内容・他学部等への影響

情報工学専修においては,「(ア) 教育課程の変更内容・他学部等に影響を与える授業科目等」で述べた人工知能の理解に必要な数学科目（情報数学Ⅰ・情報数学 II）の追加を含めて,数学科目の教育内容をより体系的に学べるように変更する。基礎数学Ⅰ・II では，情報工学および生活支援機器の作成に必要な基礎的な数学分野の教育を強化する。そして情報数学Ⅰ・II（新規）では，人工知能などの情報工学の理解に必要な線形代数,微分,確率・統計に関

する内容を行う。人工知能Ⅰ・II（新規）では，人工知能の理解に必要な知識や数学,Python等を使ってのプログラム実装や活用の方法に関する内容を行う。さらに，「Society 5.0」に代表される社会の求めに応じるため，情報工学実験の時間数を増やして，人工知能やIoTに関わる実験を強化する。新規科目の追加に伴い，4年次科目「卒業研究Ⅱ」の履修前提となる科目に,「情報数学Ⅰ」・「情報数学Ⅱ」・「人工知能Ⅰ」の3科目を追加する。

建築バリアフリー専修においては,「イ　学則変更(収容定員変更)の必要性」の通り，建築分野の社会的情勢および本専修の志願者状況に合わせた定員とすることを目的に定員増とするが，このことに伴う教育方法の変化は,「(ア）教育課程の変更内容・他学部等に影響を与える授業科目等」に記したように，教育方法及び履修指導方法に大きな変更はしないが,演習系科目を中心に少人数でのより緻密な学生対応が可能となる。特に,本専修の特色である福祉建築，環境建築領域の確実な知識・技術の定着を目的として，3年次科目の中に4年次科目「卒業研究Ⅱ」の履修前提となる科目に,「福祉住環境計画」・「エコロジカル建築設計演習」・「福祉環境設計演習」・「ビオトープ計画施工演習」・「環境分析評価演習」の5科目の中から6単位以上を追加する。

なお,両専修とも，他学部・他学科等への影響はない。

本学部のディプロマ・ポリシーを実現するべく配置している福祉関連専門科目については変更しないが，工学関連専門科目の充実に伴い，一部学生（社会福祉士受験資格取得者：平成29年度4名，平成30年度6名，令和元年度3名）に開講してきた要卒単位に含まない資格独自科目については廃止する。このことに伴い，社会福祉士受験資格がなくなるため，カリキュラム・ポリシーの社会福祉士受験資格取得に関する部分を削除する。

（ウ）　教員組織の変更方針

情報工学専修では人工知能に関わる科目を担当する教員配置とする。また，建築バリアフリー専修ではクラス数の増加に伴う教員配置とする。

（エ）大学全体の施設・設備の変更内容

今回は，既存学科の収容定員変更と一部科目の追加のみである。情報工学専修では，人工知能関連の講義科目，演習科目の追加のため，実験を行うための機材を追加する。建築バリアフリー専修では，収容定員変更前後でクラス数を増やすため，ＰＣスペック増設やソフトの購入など新たに学習環境を整備する。

学則の変更の趣旨等を記載した書類【資料編】

目　次

〈資料 1〉「平成 26 年度補正先端課題に対応したベンチャー事業化支援等事業 IT 人材の最新動向と将来推計に関する調査結果（報告書概要版）」平成 28 年 6 月 10 日　経済産業省 ---------- p. 1

〈資料 2〉公益財団法人テクノエイド協会
福祉用具プランナー研修会実施機関名一覧（2019 年度） ---------- pp.2-3

〈資料 3〉「ヒューマンタッチ総研～Monthly Report　国内の人材市場動向数値　（建設業界編）」
2019 年 2 月　ヒューマンタッチ総研 ---------- p. 4

〈資料 4〉ひまわりケアグループ, 日本福祉大学, あいちせぼね病院
３法人の取り組みに関する資料 ---------- p. 5

〈資料 5〉日本福祉大学と豊田自動織機の教育・研究連携に関する資料 ---------- pp.6-9

〈資料 6〉タイ・スィーパトゥム大学との大学間連携の取り組みに関する資料 -------- pp.10-12

〈資料 7〉愛知県半田市との連携による中心市街地活性化の取り組みに関する資料 ---- pp.13-14

〈資料 8〉大学周辺の亀崎地区と協働した地域密着型の演習型講義の展開に関する資料 - pp.15-20

IT人材の「不足規模」に関する推計結果

【資料1】

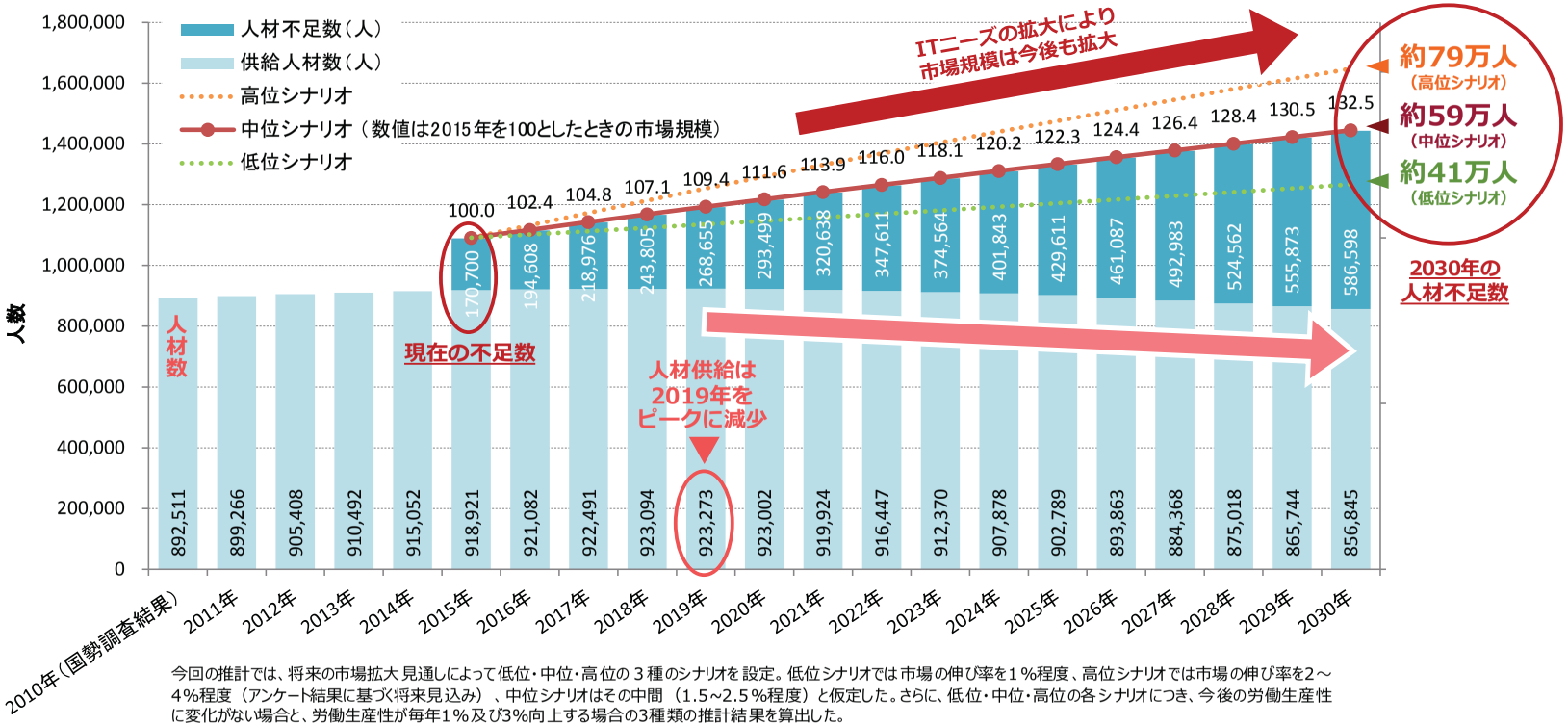
■ IT関連産業の産業人口に関する将来推計（マクロ推計）の一環として、人材の不足状況や今後の見通しに関するアンケート調査結果に基づき、現在及び将来の人材不足数に関する推計も実施。

■ マクロ推計によれば、**2015年時点で約17万人のIT人材が不足している**という結果になった。さらに、前頁で示されたとおり、今後IT人材の供給力が低下するにもかかわらず、ITニーズの拡大によってIT市場は今後も拡大を続けることが見込まれるため、IT人材不足は今後ますます深刻化し、**2030年には、（中位シナリオの場合で）約59万人程度まで人材の不足規模が拡大する**との推計結果が得られた。

2 今後のIT人材の不足規模

IT人材の不足規模に関する予測

■ **2015年の人材不足規模：約17万人**
■ **2030年の人材不足規模：約59万人**（中位シナリオ）
⇒ IT人材不足は、今後ますます深刻化



今回の推計では、将来の市場拡大見通しによって低位・中位・高位の３種のシナリオを設定。低位シナリオでは市場の伸び率を１％程度、高位シナリオでは市場の伸び率を2～4％程度（アンケート結果に基づく将来見込み）、中位シナリオはその中間（1.5~2.5％程度）と仮定した。さらに、低位・中位・高位の各シナリオにつき、今後の労働生産性に変化がない場合と、労働生産性が毎年1％及び3％向上する場合の3種類の推計結果を算出した。

【資料２】

福祉用具プランナー情報システム

公益財団法人テクノエイド協会
The Association for Technical Aids(ATA)

福祉用具プランナー研修

開催年度： 2019年度 ▼ **（4月～3月）**

1．公益財団法人テクノエイド協会主催の研修

都道府県	実施機関名	eラーニング学習期間 集合研修期間	募集人数	概要	開催要項	備考
東京都	公益財団法人テクノエイド協会	12月6日～2020年1月31日 2020年2月15～21日の7日間	54人	概要	開催要項	締切を過ぎましたが、お席に余裕がありますので、受講希望の方はお問合せください

2．介護実習・普及センター等主催の研修（各実施機関へ直接お申し込みください）

都道府県	実施機関名	eラーニング学習期間 集合研修期間	募集人数	概要	開催要項	備考
北海道	北海道介護実習・普及センター	10月1日～12月2日 12月7,8日、2020年1月18,19日、2月22～24日の7日間	50名	概要	開催要項	申込は締切ました
宮城県	公益財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団（宮城）	5月21日～7月8日 6月13～15日、7月11～14日の7日間	40名	概要	開催要項	申込は締切ました
東京都	NPO法人日本アビリティーズ協会	7月31日～9月30日 9月7,14,15,21日、10月5,12,19日の7日間	30名	概要	開催要項	申込は締切ました
東京都	公益財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団（東京）	11月16日～2020年1月15日 12月12～14日、2020年1月16～19日の7日間	40名	概要	開催要項	申込は締切ました
富山県	富山県介護実習・普及センター	8月9日～10月9日 10月3,7,31日、11月1,12～15,28日の9日間	30名	概要	開催要項	申込は締切ました
長野県	長野県高齢者生活協同組合	9月24日～11月22日 10月23～26日、11月27～30日の8日間	20名	概要	開催要項	最低募集人数に達しなかったため、開催中止となりました
名古屋市	なごや福祉用具プラザ	8月23日～10月23日 10月13,19,20,26,27日、11月2,9,10日の8日間	30名	概要	開催要項	申込は締切ました
滋賀県	滋賀の縁創造実践センター 社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会	10月1日～11月29日 10月24,30日、11月11,16,27,28日、12月7,13,17日の9日間	30名	概要	開催要項	申込は締切ました
大阪府	公益社団法人関西シルバーサービス協会（第1回）	5月27日～7月26日 7月18～20、25～27日、8月1,2日の8日間	50名	概要	開催要項	申込は締切ました
大阪府	公益社団法人関西シルバーサービス協会（第2回）	12月19日～2020年2月18日 2020年2月13～15,20～22,27,28日の8日間	50名	概要	開催要項	申込は締切ました
鳥取県	福祉用具＆住環境ネットワークとっとり	12月24日～2020年2月24日	20名	概要	開催要項	11月30日(土)締切必着郵送または持参、抽選

		2020年2月1,2,8,9,15,16,29日、3月1日の8日間				申込人数15名以上で開講
広島県	公益財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団（広島）	8月5日～10月4日	40名	概要	開催要項	申込は締切ました
		9月12～14日、10月10～13日				
大分県	大分県社会福祉介護研修センター	7月1日～9月2日	30名	概要	開催要項	申込は締切ました
		8月17,18,24,25,31日、9月1,7,8日の8日間				
沖縄県	福祉用具プランナー研究ネットワーク（沖縄）	11月16日～1月17日	50名	概要	開催要項	申込は締切ました
		2020年1月11～14日,24～26日の7日間				

3．教育機関での福祉用具プランナー研修

教育機関名	住所	TEL
国際医療福祉大学大学院　福祉支援工学分野	〒107-0052 東京都港区赤坂4-1-26	03-5574-3900
首都大学東京大学院　人間健康科学研究科	〒116-8551 東京都荒川区東尾久7-2-10	03-3819-1211
西武学園医学技術専門学校　義肢装具学科	〒169-0073 東京都新宿区百人町2-5-9	03-3360-6217
新潟医療福祉大学　義肢装具自立支援学科	〒950-3198 新潟県新潟市北区島見町1398	025-257-4455
日本福祉大学　健康科学部福祉工学科	〒475-0012 愛知県半田市東生見町26-2	0569-20-0111
神戸医療福祉専門学校三田校　義肢装具士科4年制	〒669-1313 兵庫県三田市福島501-85	0120-511-294

トップページへ

Copyright 2014 Association for Technical Aids, Inc. All rights reserved.

ヒューマンタッチ総研独自分析月次レポート（2019年2月26日 公開）

建設業界人材動向レポート（平成31年2月）

2018年、建設技術者の有効求人倍率は過去最高の6.18倍に

ツイート　いいね！ 1　0　LINEで送る

ヒューマンタッチ総研レポートでは、建設業に特化して人材関連の様々な情報、最新の雇用関連データを月に１回のペースで発信していきます。ご愛読いただければ幸いです。
また、メールマガジンにご登録いただきますと、最新の調査レポートサマリーの配信を受けることができます。

レポートの定期購読（無料）はこちら

ヒューマンタッチ総研レポートでは、建設業に特化して人材関連の様々な情報、最新の雇用関連データを月に１回のペースで発信していきます。ご愛読いただければ幸いです。
また、メールマガジンにご登録いただきますと、最新の調査レポートサマリーの配信を受けることができます。

レポートの定期購読（無料）はこちら

▼ 建設業界のトピックス

厚生労働省の「一般職業紹介状況」の2018年次のデータが公表されましたので、その中から建設技術者に関する動向をまとめました。

2018年、建設技術者の有効求人倍率は過去最高の6.18倍に

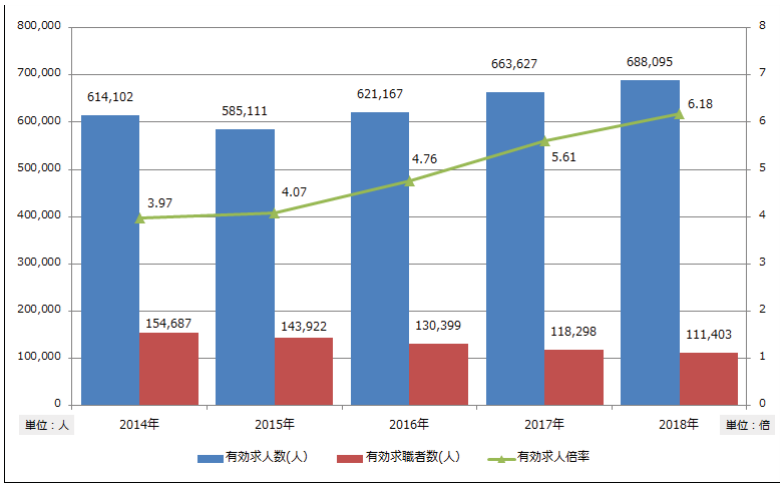
厚生労働省が2月1日に発表した「一般職業紹介状況」によると、2018年の建設技術者（建築・土木・測量技術者）の有効求人数は688,095人に上り、直近の底だった2015年（585,111人）に比べて17.6%増えたことが分かりました（＝図表①）。

このように建設技術者への需要は高まる一方、18年の有効求職者数は111,403人となり、14年（154,687人）比で28.0%減少しています。その結果、有効求人倍率は、18年平均で6.18倍に達し、年間平均として初めて6倍を超えました。これは、現在の職業分類で統計の集計を開始した01年以降の最高値であり、12の職種から構成される専門的・技術的職業の中で最も高い倍率です。まさに、建設技術者は日本で最も人材を確保することが難しい職種になったと言えます。

次に、有効求人倍率の先行指標となる新規求人倍率の月別の推移を見ると、17年12月に初めて10倍台に突入した新規求人倍率は、18年についてもすべての月で、前年同月を上回り、18年12月には10.81倍に達しました。

こうした状況などを踏まえると、建設業各社では、19年についても深刻な建設技術者不足が続くことが懸念されます。

【図表①　建設技術者の有効求人倍率・有効求人数・有効求職者数の推移】



最新調査レポートを配信！
無料メルマガ登録はこちら

調査・レポート

2019/12/20
建設業界人材動向レポート（2019年12月）

2019/11/29
建設業主要各社の2020年3月期第2四半期決算まとめ

2019/11/22
建設業界人材動向レポート（2019年11月）

2019/10/29
建設業の給与動向（2019年10月）

2019/10/21
建設業界人材動向レポート（2019年10月）

2019/9/30
建設業界人材動向レポート（2019年9月）

2019/9/13
2020年度の国土交通省予算概算要求から見る建設市場

調査・レポート一覧

メディア掲載

2020/1/09
ヒューマンタッチ総研 メディア掲載情報【2020年1月】

2019/12/10
ヒューマンタッチ総研 メディア掲載情報【2019年12月】

2019/11/29
ヒューマンタッチ総研 メディア掲載情報【2019年11月】

2019/10/30
ヒューマンタッチ総研 メディア掲載情報【2019年10月】

2019/9/30
ヒューマンタッチ総研 メディア掲載情報【2019年9月】

メディア掲載一覧

イベント・セミナー

2019/12/20
「建設業界のためのICTを活用した生産性向上と働き方改革セミナー」開催レポート

2019/11/28
CPDS認定セミナー「建設業界のための、ICTを活用した生産性向上と働き方改革」

2019/8/07
「建設業界のための、ICTを活用した生産性向上セミナー」開催レポート

2019/7/30

https://kensetsutenshokunavi.jp/souken/report/201902.php

福祉のインフラ化を目指して!!

ひまわりケアグループ

会社PR

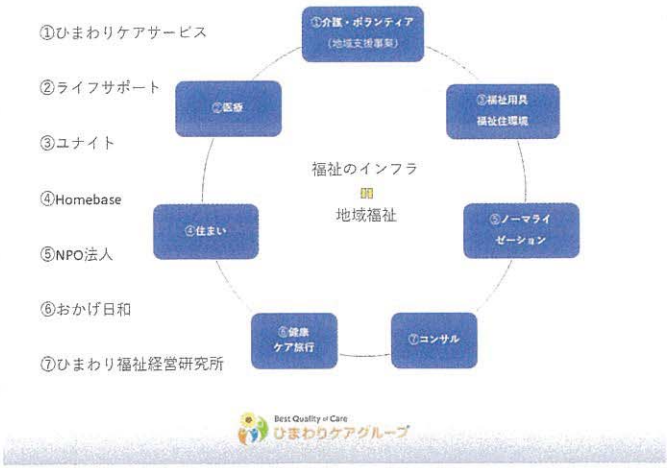
地域の皆様とグループの連携を活かし、地域福祉の活性化と福祉のインフラ化を目指します！

海部郡蟹江町今本町通 22
TEL.0567-95-7015

『地域が求める“全く新しい介護施設”の実現と地域活性化』

「ひまわりケアグループ」、「日本福祉大学」、「あいちせぼね病院」３法人のコラボ企画で、犬山市の地域福祉活性化を目的に、約 2000 坪の土地を開拓。平成 31 年の完成を目指す。福祉のインフラ企業を自負する弊社と、優れた福祉研究学校、日本一の整形病院のキャリアを融合した全く新しい介護施設を創造する。

これからの介護施設は地域と共創し、地域とともに進化し続ける。“地域の方が介護施設に求めるものは何か？”地域のコミュニティーの場となり、地域福祉を自然なカタチで活性化する。私たちはそれに応える介護施設及び空間を実現する。



ひまわりケアグループは７つの会社で構成しており、それぞれが違った分野で総合福祉事業を展開しています。

「福祉」とは人々の幸福で安定した生活を公的に達成する事です。私達はグループの総合力で皆様の生活をサポートいたします。困ったときにひまわりを思い浮かべて頂ける、そんな福祉のインフラ企業を実現し、日本を元気にしていきます。

日本福祉大学と豊田自動織機の教育・研究連携

1．大府市東ビオトープ（https://www.toyota-shokki.co.jp/csr/environment/biotope/）の企画提案（平成 24 年）
2．大府東ビオトープでの健康科学部講義「ビオトープ計画施工演習」の実施（平成 27 年～）(https://www.toyota-shokki.co.jp/csr/environment/biotope/events/2016/11/21/001638/index.html)
3．オンデマンド講義「知多半島のふくし」での（第 6 講第 3 章）大府東ビオトープについての講義（写真１）（平成 28 年～）

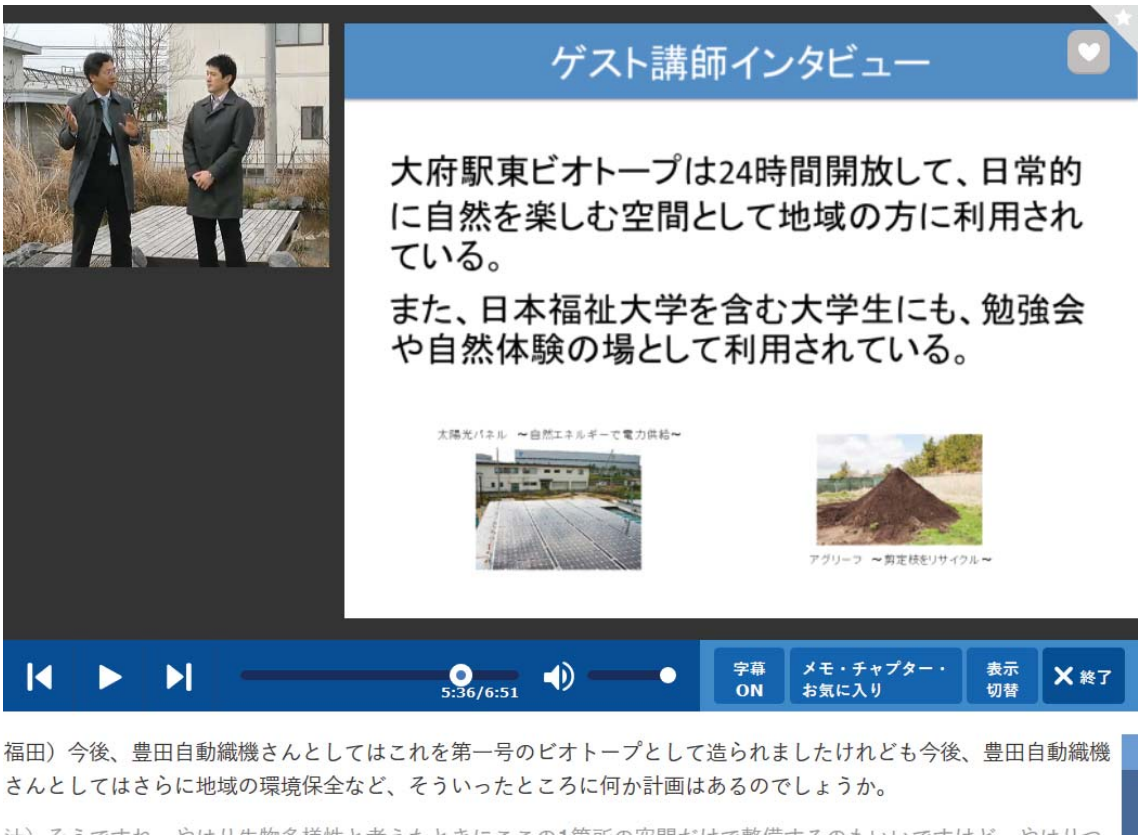


写真１．　「知多半島のふくし」第６講第３章

4．豊田自動織機内アニマルパス（https://www.toyota-shokki.co.jp/investors/items/TICOReport2018_J_p59-74_environment.pdf）企画提案（平成 29 年）
5．豊田自動織機東浦工場内アニマルパスおよび隣接する東浦町自然環境学習の森でのキツネの共同調査（令和元年～）

平成29年度　あいち森と緑づくり生態系ネットワーク形成事業　　2018.6.15
豊田自動織機東浦工場アニマルパス　経過報告　　㈱豊田自動織機　PE環境部

1.開所式

日時	：2018年4月16日（月）　10:00～11:00	参加者 ：	知多半島生態系NW協議会_大東会長
場所	：豊田自動織機東浦工場		東浦里山支援隊_都築様
ｱｼﾞｪﾝﾀﾞ	：1.主催者、来賓挨拶		日本福祉大学_福田教授
	2.概要説明		㈱オオバ名古屋支店_小林様
	3.現地確認		愛知県環境部_近藤様
	4.代表植樹		豊田自動織機_石﨑工場長はじめ11名
		メディア ：	テレビ局、新聞社など8社18名

大東会長挨拶

小林様説明

現地確認

代表植樹

記念撮影

報道陣

2.完成写真

防草シートで小動物の通り道を整備。また道の両側にはエサとなる樹木や地域在来種を植樹。

3.経過

アニマルパス周辺に監視カメラ3台を設置。
⇒タヌキ、イタチ、ネコ、ウサギなどを確認（6月12日現在）
（キツネは確認できず）

4月21日_ウサギ

4月27日_タヌキ

4.その他

現地に説明用看板を設置（2018年7月予定）。

平成29年度　あいち森と緑づくり生態系ネットワーク形成事業
豊田自動織機東浦工場アニマルパス　　経過報告

2019.6.14
㈱豊田自動織機　PE環境部

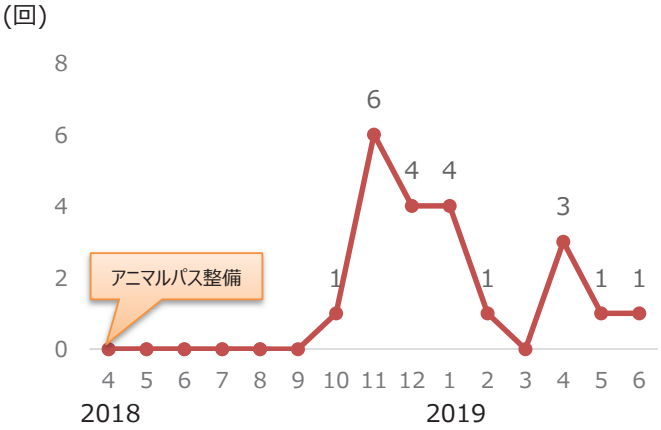
1.経過

1）アニマルパス

設置から1年が経過。植樹した木々も順調に生長。

2）キツネ確認状況

アニマルパス内_キツネ確認回数



2.トピックス

① NHK（おはよう日本）でアニマルパス放映（4/9）

② 当社株主総会でアニマルパスの状況報告（6/11）
⇒昨年の株主総会ではアニマルパス設置を報告。今年はキツネが確認できたことを報告。

③ 関係者*と情報共有（6/12）　＊日本福祉大学_福田教授/学生、東浦里山支援隊_田中様/南川様
⇒キツネの確認状況について情報共有、現地確認

①

③

以上

日本福祉大学 Since 1953
NIHON FUKUSHI UNIVERSITY

SPU
SRIPATUM UNIVERSITY

MEMORANDUM OF UNDERSTANDING

Between

School of Architecture, Sripatum University, Thailand
And
Faculty of Health Sciences, Nihon Fukushi University, JAPAN

This Memorandum of Understating recognizes the intention of School of Architecture, Sripatum University and Faculty of Health Sciences, Nihon Fukushi University to establish academic collaborations and to work together in the area of barrier-free design for the benefit of both institutions, their students, faculty members and communities they serve.

School of Architecture, Sripatum University and Faculty of Health Sciences, Nihon Fukushi University further recognize that collaborative efforts will be of mutual benefit and will contribute to an enduring institutional linkage for academic cooperation and assistance.

School of Architecture, Sripatum University and Faculty of Health Sciences, Nihon Fukushi University agree to continue discussions as opportunities arise to ascertain the extent to which cooperative activities could be implemented in the future. These activities include:

1. The development of programs designed to promote cooperation in fields of mutual interest which shall include but not limited to education and training of students and staff.
2. The development of projects and programs under mutual interests.
3. The development of formal awarded courses and professional development courses as mutually agreed by the two institutions.
4. The development of collaborative research projects, faculty and student exchange programs and collaboration in the areas of seminars and conferences.

Understood and agreed on -2nd December-, 2018

Yoshiro Kodama
Prof. Yoshiro Kodama
President
Nihon Fukushi University

Dr. Ratchaneeporn Pukkhayaporn Pukkamarn
President
Sripatum University

Prof. Junko Kuze
Dean, Faculty of Health Sciences
Nihon Fukushi University

Mr. Teeraboon Pisanapipong
Dean, School of Architecture
Sripatum University

Examples of cooperation

- Student / Academic Workshops as a mutual learning and sharing experience in developing design methods and solutions
- Jointly-course development
- Joint research in the fields of interest between two institutions
- Exchanged researchers, visiting scholar
- Joint organized international conferences in the field of interest
- Student exchange programs/semester and development of accreditation
- Short-course training programs and student internship
- Organized field visit and sharing the learning case studies and platforms in specific experiences

日本福祉大学とスィーパトゥム大学の学術協定による国際的な教育活動

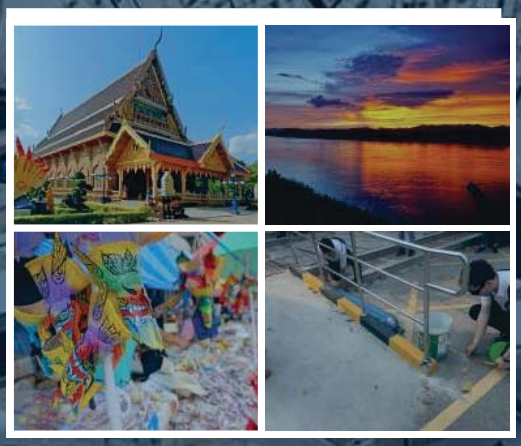
「最先端の環境共生型福祉ビレッジワークショップ」

ワークショップの背景と目的

タイを初め東南アジア諸国では，日本と同様に高齢化が顕著に進行しており，日本が有する高齢化社会に対応する知見へのニーズは非常に高いと言える。また，発展途上国での開発では，自然環境に配慮した「環境共生型社会」の実現に関する知見への関心も高まっている。よって，本ワークショップを通じて，タイの学生との混合チームにより，「最先端の環境共生型福祉ビレッジワークショップ」を構想することを目的とする。

【 開催期間 】
2020 年
1/5 日
～ 1/12 日

【 ワークショップ開催地 】
タイ王国ローイ県
ダーンサイ市



【 事前説明会 】
9/24 火
or 9/25 水
12:45 ～ 13:00

【 説明会場所 】
模型室（218 教室）

タイムスケジュール

1 月 5 日（日） バンコクへ出発， 到着後，レセプション
1 月 6 日（月） ダーンサイへ出発， 到着後，敷地調査
1 月 7 日（火） 敷地調査
1 月 8 日（水） デザインワークショップ
1 月 9 日（木） デザインワークショップ
1 月 10 日（金） 提案発表，終了後，交流会
1 月 11 日（土） バンコクへ出発，到着後，市内観光
1 月 12 日（日） 名古屋へ出発，名古屋駅到着後，解散

募集定員

計 10 名程度（1 ～ 4 年生）

＊応募総数が定員を超えた場合は，面接等を含めた選考を行う場合がある。

渡航にかかる想定費用

航空券：5 ～ 10 万円前後（予約時期に変動する可能性有）
宿泊費：3 万円前後（2 ～ 3 名一室，7 日分）
食費他：5 万円程度

＊各自，「研究調査奨励金」等に応募して，渡航費用の補助を獲得してください。

ＪＲ委００５

収　入
印　紙

請　　書

１．委　託　名　　ＪＲ半田駅周辺まちづくり検討委員会作業部会原案監修業務委託

２．委 託 場 所　　半田市御幸町地内ほか

３．請 負 金 額　[redacted]
（うち取引に係る消費税及び地方消費税の額　[redacted]）

４．委 託 期 間　　着　手　令和元年９月２７日

完　了　令和２年３月２０日

内訳明細書

業　務　種　別	数量	単位	単　価	金　額	摘　要
仕様書のとおり	1	式	[redacted]	[redacted]	
合　計　①				[redacted]	
合計の　10　％の額　②				[redacted]	
請負金額　(①+②)				[redacted]	

上記の業務委託について、次の条項を遵守のうえお請けします。

第１条　業務委託は、半田市備付けの仕様書等により施行するものとする。

第２条　業務委託が完成したときは、完了届を提出するものとする。

第３条　前条の完了届を受理された日から、１０日以内に検査を受けるものとする。

第４条　請負代金は、前条の検査に合格した後、請求書を受理された日から、３０日以内に支払を受けるものとする。

第５条　期間内に業務委託を完成することができない場合は、遅延日数に応じ未履行部分相当額に対し、年１４．６％の割合で計算した額の違約金を支払うものとする。

第６条　前各条のほか半田市財務規則（昭和４６年半田市規則第１１号）によるものとする。

令和　元　年　９　月２６日

半田市長　榊原　純夫殿

受 注 者　所 在 地　愛知県知多郡美浜町奥田字会下前３５－６

名　　称　学校法人　日本福祉大学
理 事 長　丸山　悟　　印

【資料７】

ＪＲ半田駅周辺まちづくり検討委員会作業部会原案監修業務委託　仕様書

１．目的

ＪＲ半田駅周辺まちづくり検討委員会作業部会（以下「作業部会」という。）において提案された意見に対して、専門的な見識を活かしながら、原案を作成するために案の監修を行うことを目的とする。

２．内容

委託内容は下記のとおりとする。

①作業部会案の監修

・作業部会に出席するとともに提案された意見に対して、専門的な見識を活かしながら、原案を作成するために案の監修を行うこと。

②模型等作成

・作業部会での検討及びＪＲ半田駅周辺まちづくり検討委員会（以下「検討委員会」という。）での審議に必要な模型や図面等を作成すること。

③検討委員会への提案内容の監修

・検討委員会へ提案する内容（作業部会で取りまとめた原案）の監修を行うこと。

３．その他

・仕様書に記載していない内容で、委託実施において疑義がある場合は、その都度協議する。

2017年04月13日 中日新聞 朝刊知多総合 17頁

来教寺で、亀崎まちおこしの会の松山さんの説明を聞く学生たち＝半田市亀崎町で

キャンパスは亀崎の街

半田 日福大生が地域密着学習

日本福祉大で建築を学ぶ学生による、半田市亀崎地区を舞台にした地域密着課題の取り組みが始まった。毎回の授業場所は大学の講義室でなく、亀崎のまち。現地調査を通じて学生が地域の課題や可能性を見いだし、まちの発展につながる提案にまとめていく。

十一日、同市亀崎町の来教寺で開かれた一回目の授業には、同大半田キャンパス（半田市東生見町）の健康科学部福祉工学科バリアフリーデザイン専修の三、四年生計十九人が参加。来教寺の副住職から町の歴史を聞いたり、ＮＰＯ法人「亀崎まちおこしの会」の松山恭久さん(二〇)から地区にある狭い路地「せこ」や祭りなど、亀崎の特性の説明を受けたりした後、地区一帯を歩いて見学した。

課題はエコロジカル建築設計演習の一環。学生を指導する同学科の坂口大史助教(三一)は「亀崎は空き家対策をはじめ、まちづくりの動きが活発。大学から近い場所にあるこの地域を学生の学びに生かしたい」と説明。亀崎まちおこしの会の石川正喜さん(六〇)は「亀崎の町を授業で取り上げてもらうことで、学生さんとの交流にもつながる」と期待している。（三宅千智）

2017年06月14日 中日新聞 朝刊知多総合 15頁

学生が集う亀崎を

日福大生 課題実習10案

半田市亀崎町の来教寺で十三日、日本福祉大半田キャンパス（半田市東生見町）の学生による亀崎地区の地域密着課題実習の最終発表があった。（辻晃平）

課題の最終発表をする学生＝半田市亀崎町で

学生は同大健康科学部福祉工学科バリアフリーデザイン専修三、四年生の十九人。学生が気軽に亀崎の街を訪れるようにする課題に四月から取り組み、この日は十案を発表した。

発表では、空き家や空き地を利用して、学生が友達と一緒に課題に取り組めるような場所をつくる案や、室内で子どもが学生と一緒にブランコや滑り台で遊べる施設を造る案などが披露された。

発表には地区の住民も参加。「実習を通じて感じた亀崎の印象は」「学生目線で、亀崎に足りないものは」などと質問していた。

2017年10月30日 中日新聞 朝刊尾近知総合 15頁

模型づくり 児童熱中

半田で「亀崎こども建築塾」

木材などで建物の模型を作る参加者＝半田市亀崎町で

半田市亀崎町の「街かどサロンかめども」で二十九日、「亀崎こども建築塾」が開かれ、子どもたちが建物の模型の組み立てを楽しんだ。ものづくりの楽しさや地域の魅力を知ってもらおうと、日本福祉大健康科学部福祉工学科バリアフリーデザイン専修の坂口大史助教の研究室と、NPO法人「亀崎まちおこしの会」が主催した。

午前の部には小学校低学年の児童二十三人が参加。研究室の学生の助言を受けながら、長さ一㍍や五十㌢の木材を組み合わせ、骨組みを作った。短い木材を補強に使ったり新聞紙や布を貼ったりして工夫を凝らし、建物の模型を完成させた。

坂口助教は「今後、秘密基地の製作や伝統工芸体験などさまざまに展開していきたい」と話した。

（三宅千智）

中日新聞（2018年1月24日付）
掲載記事は中日新聞社の許諾を得て転載しています。

地域の中心に本棚を

半田市亀崎常盤町に昨年オープンした「亀崎ささえあいセンター（駅前はうす）」で、日本福祉大半田キャンパス（同市東生見町）で建築を学ぶ学生が地域と協働で本棚作りに励んでいる。地域の人々が愛着を持って集える場所に、との願いが込められている。（三宅千智）

半田・亀崎 日福大生と製作

本棚は高さ百七十八㌢、幅百七十三㌢、奥行き六十㌢。前後二層式で、前部は底にレールを取り付けて左右に動く。本を二百冊以上並べられるほか、手作り品などの飾り棚としても使えるという。

本棚作りは、日福大健康科学部福祉工学科バリアフリーデザイン専修の坂口大史助教の研究室が、駅前はうすを運営する市社会福祉協議会、亀崎思いやり応援隊（KOO）と合同で企画。学生による設計図や模型を基に、二十一日から木材の切断などの作業に取り掛かった。二十三日も学生、社協職員、KOOのメンバーなど住民たちが駅前はうすに集まり、組み立てなどに奮闘した。

本棚は月内に完成予定。団体貸出制度を利用して図書館の企画や展示テーマに沿った本を並べる計画もあるという。設計を担当した日福大の井垣暁太さん(二)は「さまざまな本を持ち寄って、亀崎の皆さんで活用してほしい」と話している。

本棚作りに励む日福大生、地域住民ら。右下は完成後を想定した模型＝半田市亀崎常盤町で

（許諾番号:20180206-20608）

2018年05月13日 中日新聞 朝刊知多版 20頁

オアシス目指して 半田でベンチ作り

日福大生ら

半田市亀崎常盤町の亀崎児童センター隣のときわ北公園で十二日、日本福祉大の学生や地元の住民らが、センターなどに置くためのベンチ作りに取り組んだ。

日福大健康科学部福祉工学科の坂口大史助教の研究室のメンバーを中心とした学生と、亀崎思いやり応援隊のメンバー、事前に応募した地元の子ども計四十人が参加。木材をのこぎりやチェーンソーで切ったり、かんなややすりで表面を滑らかにしたりした。

作業は十九日にもあり、ピアノの鍵盤をデザインした横長のものと、三つの台形ベンチを組み合わせて使えるものの二種類を完成させる。出来上がったベンチは児童センターや、近くの「亀崎ささえあいセンター（駅前はうす）」に設置。

同大四年の渡辺雅人さんは「ベンチを通じて地域の人が仲良くなるオアシスのような場所を目指したい」と話した。

ベンチにネジを打ち込む参加者＝半田市亀崎常盤町のときわ北公園で

半田・亀崎での活動 卒論に

日福大 地域のサロンで内容発表

地域の人に向けて活動内容を発表する白井さん(左)＝半田市亀崎町のかめともで

日本福祉大半田キャンパス（半田市東生見町）でまちづくりを学ぶ、坂口大史（だいし）助教のゼミ生の四年生六人が、同市亀崎町の地域交流スペース「まちかどサロン　かめとも」で卒業論文を発表した。大学と地域連携の取り組みの集大成として初めて企画された。学生や地域住民約五十人が集まり、亀崎地区での活動を振り返った。

坂口ゼミでは、かめともで活動するNPO法人「亀崎まちおこしの会」と連携して地域の子どもたちを対象にした「亀崎こども建築塾」を開いたり、空き家を改装したシェアハウスで学生が生活しながら亀崎について学んだりしている。

発表会では、シェアハウスで約一年半生活した白井翼さんらが発表。白井さんは大学や亀崎地域、社会福祉協議会の関係者約四十人にインタビューした結果から「学生が自発的に地域と関わることが大切」とまとめた。亀崎潮干祭と地域への愛着の関係に関する研究や、半田市の市街地再開発の提案などもあった。

坂口助教は「学生がどんな研究をしているのか地域の人に知ってもらいたかった。卒業する学生にも地域とのつながりを継続していってほしい」と話した。

（垣見窓佳）

【記　録】

掲載日		2019 年 3 月 13 日 (水)【 14 面】
掲載紙		(中日)・朝日・毎日・読売・日経・中経・東京・その他（　　）【(朝刊)・夕刊】
掲載面		総合　・社会・　教育・大学　・経済・ｽﾎﾟｰﾂ・(知多)・愛知　・地域　・その他（　　）
分　類	機関	学園・(大学)・大学院・研究所/ｾﾝﾀｰ・専門学校・付属高校・包括連携協定大学・提携法人等・知多半島５市５町・名古屋市・愛知県・中央省庁・政府・その他（　　）
	詳細	(大学全般)・教職員（理事長・　学長・理事・学園顧問・社福・子ども・ｽﾎﾟｰﾂ・健康・経済・国際・看護・福経（通信）・大学院・研究所/ｾﾝﾀｰ・専門学校・付高・客員・職員・元教職員）・在学生・卒業生・広告・参考記事・その他（坂口大史：健康科学部助教、白井翼：健康科学部4年生（健康科学部福祉工学科バリアフリーデザイン専修））
リリース		無　・　有　（　年　月　日） 日福表記（(有)・無）

【添付資料】

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（健康科学部福祉工学科情報工学専修）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合基礎科目	国際コミュニケーションⅠ	1前		1			○							兼3	
	国際コミュニケーションⅡ	1後		1			○							兼3	
	心理学	1前		2		○								兼1	
	社会学	1前		2		○								兼1	
	経済学	1前		2		○								兼1	
	憲法	1後		2		○								兼1	集中
	倫理学	1後		2		○								兼1	
	健康科学概論	1前		1		○			1					兼6	
	自然科学概論	1後		2		○				1					
	情報処理演習	1前	2				○							兼2	
	スポーツと健康Ⅰ	1前		1			○							兼2	
	スポーツと健康Ⅱ	1後		1			○							兼2	
	こころとからだ	1前		2		○								兼1	
	福祉社会入門	1前		2		○								兼1	オンデマンド
	日本福祉大学の歴史	1後		2		○								兼1	オンデマンド
	視覚障害者支援論	1前		2		○								兼1	
	ろう文化と手話	1前		2		○								兼1	
	地震と減災社会	1前		2		○								兼1	オンデマンド
	聴覚障害者の理解と支援	1前		1		○								兼1	オンデマンド
	ふくしとフィールドワーク	1前		2		○								兼1	オンデマンド
	国際理解	1後		4		○								兼1	
	ふくしと減災コミュニティ	2後		2		○								兼1	オンデマンド
	知多半島のふくし	2後		2		○								兼1	オンデマンド
	ふくしフィールドワーク実践	3後		2		○								兼1	
	情報英語	3後		1		○				1					
	小計（　25科目）	－	2	43	－		－		1	1	0	0	0	兼34	
専門基礎科目	基礎数学Ⅰ	1前	2				○			1				兼1	
	基礎数学Ⅱ	1後		2			○			1					
	リハビリテーション論	1後		2		○				1					
	情報数学Ⅰ	1後		2		○						1			
	医学一般Ⅰ（からだのしくみ）	1前		2		○								兼1	
	情報工学入門	1前		2		○			1						
	基礎演習	1前		2			○			1					
	情報処理	1後		2			○		1						
	確率統計学演習	2後		2			○							兼1	
	健康情報演習A	2前		2			○		1						
	健康情報演習B	2後		2			○					1			
	論理回路	2前		2		○			1						
	情報数学Ⅱ	2前		2		○						1			
	社会調査法	3前		2		○								兼1	
	小計（　14科目）	－	2	26	－		－		3	2	0	2	0	兼4	
専門科目	福祉用具論	1後		2		○			1						
	介護福祉論	1前		2		○								兼2	
	コンピュータシステムⅠ	1後		2		○			1						
	プログラミング演習Ⅰ	1前		2			○		1						
	プログラミング演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	障害者福祉論	2前		2		○								兼1	
	地域福祉論Ⅰ	2前		2		○								兼1	
	力学基礎	2前		2		○						1			
	コンピュータシステムⅡ	2前		2		○			1						
	データ構造とアルゴリズムⅠ	2前		2		○			1						
	リハビリテーション工学	2後		2		○			1						
	オブジェクト指向プログラミング演習	2前		2			○		1						
	データベース	2後		2		○				1					
	システム設計論	2後		2		○			1						
	情報ネットワーク	2前		2		○			1						
	福祉用具演習	2前		1			○		1						
	身体機能リハビリテーション	2前		2		○				1					
	認知機能リハビリテーション	2後		2		○				1					
	福祉用具市場の理解	2後		2		○			1					兼2	
	医療システム開発演習	2後		2			○					1			
	Webプログラミング演習	2後		1			○			1					
	情報アクセシビリティ	2後		2		○			1						
	情報セキュリティ	2後		2		○			1						
	人工知能Ⅰ	2後		2		○						1			
	データ構造とアルゴリズムⅡ	3前		2		○			1						

【添付資料】

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（健康科学部福祉工学科情報工学専修）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門科目	マルチメディア	3前		2		○				1					
	キャリア開発	3前		2		○								兼1	
	高齢者福祉論	3前		2		○								兼1	
	組込みプログラミング演習	3後		1			○		1						
	生体情報とバイオメカニクス	3前		2		○						1			
	リハビリテーションシステム	3後		2		○						1			
	マルチメディア演習	3前		1			○			1					
	ＣＡＤ演習Ⅰ	3前		1			○					1			
	ＣＡＤ演習Ⅱ	3前		1			○		1						
	情報工学実験	3後		2			○		1			2			
	住環境整備・住宅関連機器	3前		2		○				1					
	健康情報実験	3後		1			○					1			
	生活支援機器演習	3前		1			○			1					
	生活と情報技術	3後		2		○			1						
	福祉用具プランニング演習Ⅰ	3後		1			○		1						
	福祉用具プランニング演習Ⅱ	3後		1			○							兼1	
	健康情報総合演習I	3前		1			○		1						
	健康情報総合演習II	3後		1			○			1					
	業界研究	3前		1			○		1						
	キャリア研究	3前		2		○								兼1	
	人工知能Ⅱ	3前		2		○						1			
	卒業研究Ⅰ	3通	4				○		3	2					
	卒業研究Ⅱ	4通	4				○		3	2					
	小計（　48科目）	－	8	79	－		－		3	2	0	2	0	兼8	
単位認定科目※	情報技術Ⅰ	－			2	－	－								※単位認定科目在学中に指定資格を取得、またはインターンシップ先を自己開拓し、一定の要件を満たした場合に本人の申請により大学で修得した単位として認定する科目のこと
	情報技術Ⅱ	－			2	－	－								
	情報技術Ⅲ	－			2	－	－								
	情報技術Ⅳ	－			2	－	－								
	キャリア形成Ⅰ	－			2	－	－								
	キャリア形成Ⅱ	－			2	－	－								
	キャリア形成Ⅲ	－			2	－	－								
	キャリア形成Ⅳ	－			2	－	－								
	インターンシップⅠ	－			1	－	－								
	インターンシップⅡ	－			2	－	－								
	小計（　10科目）	－	－	－	19		－		0	0	0	0	0	0	
自由科目は卒業単位に含まないもの※	ビジネススキル	2前/後			2	○								兼1	オンデマンド
	小計（　1科目）	－			2		－		0	0	0	0	0	兼1	
合計（　87科目単位認定科目除く）		－	12	148	19		－		3	2	0	2	0	兼44	

学位又は称号	学士（健康科学）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係，工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
福祉工学科 総合基礎科目　10単位以上 専門基礎科目・専門科目　80単位以上 総合基礎科目と専門基礎科目・専門科目 あわせて計124単位以上を修得しなければならない。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間）） （履修科目の登録の上限：48単位（年間））	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

【添付資料】

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（健康科学部福祉工学科建築バリアフリー専修）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合基礎科目	国際コミュニケーションⅠ	1前		1			○							兼3	
	国際コミュニケーションⅡ	1後		1			○							兼3	
	心理学	1前		2		○								兼1	
	社会学	1前		2		○								兼1	
	経済学	1前		2		○			1						
	憲法	1後		2		○								兼1	集中
	倫理学	1後		2		○								兼1	
	健康科学概論	1前		1		○				1				兼6	
	自然科学概論	1後		2		○								兼1	
	情報処理演習	1前	2				○							兼2	
	スポーツと健康Ⅰ	1前		1			○							兼1	
	スポーツと健康Ⅱ	1後		1			○							兼1	
	こころとからだ	1前		2		○								兼1	
	福祉社会入門	1前		2		○								兼1	オンデマンド
	日本福祉大学の歴史	1後		2		○								兼1	オンデマンド
	視覚障害者支援論	1前		2		○								兼1	
	ろう文化と手話	1前		2		○								兼1	
	地震と減災社会	1前		2		○								兼1	オンデマンド
	聴覚障害者の理解と支援	1前		1		○								兼1	オンデマンド
	ふくしとフィールドワーク	1前		2		○								兼1	オンデマンド
	国際理解	1後		4		○								兼1	
	ふくしと減災コミュニティ	2後		2		○								兼1	オンデマンド
	知多半島のふくし	2後		2		○								兼1	オンデマンド
	ふくしフィールドワーク実践	3後		2		○								兼1	
	小計（　24科目）	－	2	42	－		－		1	1	0	0	0	兼32	
専門基礎科目	基礎数学Ⅰ	1前	2				○							兼2	
	基礎数学Ⅱ	1後		2			○							兼1	
	リハビリテーション論	1後		2		○								兼1	
	医学一般Ⅰ（からだのしくみ）	1前		2		○								兼1	
	建築デザイン入門	1前/後		2			○			1		1			
	環境建築入門	1前/後		2			○		1			1			
	確率統計学演習	2前		2			○		1						
	社会調査法	3前		2		○								兼1	
	小計（　8科目）	－	2	14	－		－		1	1	0	2	0	兼5	
専門科目	福祉用具論	1後		2		○								兼1	
	介護福祉論	1前		2		○								兼2	
	建築計画Ⅰ	1後		2		○				1					
	建築図学	1前		2			○							兼1	
	建築製図演習	1後		4			○					1			
	建築学概論	1前		2		○			1	2		2			
	建築材料Ⅰ	1前		2		○			1						
	障害者福祉論	2前		2		○								兼1	
	地域福祉論Ⅰ	2前		2		○								兼1	
	建築ユニバーサルデザイン論	2後		2		○								兼1	
	建築人間工学	2前		2		○				1					
	建築デザイン表現演習	2前		2			○					1			
	建築材料Ⅱ	2後		2		○			1						
	建築構造力学	2前		2		○			1						
	建築構造力学応用	2後		2		○			1						
	建築測量実習	2後		2			○							兼1	集中
	建築ＣＡＤ演習	2後		2			○					1			
	環境政策論	2後		2		○			1						
	建築法規	2前		2		○			1						
	生態学概論	2後		2		○								兼1	
	建築計画Ⅱ	2前		2		○				1					
	建築設計演習Ⅰ	2前		4			○					1			
	建築設計演習Ⅱ	2後		4			○					1			
	建築生産	2後		2		○								兼1	
	都市計画論	2後		2		○				1					
	エコロジカル建築	2前		2		○						1			
	都市景観生態学	2後		2		○								兼1	
	キャリア開発	3前		2		○			1						
	高齢者福祉論	3前		2		○								兼1	
	森林保護学	3後		2		○			1						
	福祉住環境計画	3前		2		○				1					
	建築設備	3後		2		○								兼2	
	建築一般構造	3前		2		○			1						
	建築一般構造応用	3後		2		○			1						
	建築環境工学	3前		2		○								兼1	

【添付資料】

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（健康科学部福祉工学科建築バリアフリー専修）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門科目	エコロジカル建築設計演習	3前		4			○					1			
	福祉環境設計演習	3後		4			○			1					
	環境経済学	3前		2		○			1						
	建築防災計画	3前		2		○				1					
	ビオトープ計画施工演習	3後		4			○		1						
	環境分析評価演習	3後		2			○		1						
	造園学	3後		2		○								兼4	集中
	都市緑化論	3前		2		○						1			
	環境共生のまちづくり	3後		2		○						1			
	キャリア研究	3前		2		○			1						
	卒業研究Ⅰ	3通	4				○		2	2		1			
	企業・行政研究	4前		2		○			1						
	卒業研究Ⅱ	4通	4				○		2	2		1			
	ビオトープ研究	4前		2		○								兼1	集中
	小計（　50科目）	－	8	106	－	－			3	2	0	2	0	兼17	
単位認定科目※	情報技術Ⅰ	－			2	－	－								※単位認定科目在学中に指定資格を取得、またはインターンシップ先を自己開拓し、一定の要件を満たした場合に本人の申請により大学で修得した単位として認定する科目のこと
	情報技術Ⅱ	－			2	－	－								
	情報技術Ⅲ	－			2	－	－								
	情報技術Ⅳ	－			2	－	－								
	キャリア形成Ⅰ	－			2	－	－								
	キャリア形成Ⅱ	－			2	－	－								
	キャリア形成Ⅲ	－			2	－	－								
	キャリア形成Ⅳ	－			2	－	－								
	インターンシップⅠ	－			1	－	－								
	インターンシップⅡ	－			2	－	－								
	小計（　10科目）	－	－	－	19	－			0	0	0	0	0	0	
自由科目※卒単位には含まない要	ビジネススキル	2前/後			2	○								兼1	オンデマンド
	小計（　1科目）	－			2	－			0	0	0	0	0	兼1	
合計（82科目※単位認定科目除く）		－	12	162	19	－			3	2	0	2	0	兼53	

学位又は称号	学士（健康科学）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係，工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
福祉工学科 総合基礎科目 10単位以上 専門基礎科目・専門科目 80単位以上 総合基礎科目と専門基礎科目・専門科目あわせて計124単位以上を修得しなければならない。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間）） 1学年の学期区分：2学期 1学期の授業期間：15週 1時限の授業時間：90分	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分